秋 夏

診できる受療権を守るには、窓口負

制の整備である。歯科分野では、長

るもう一つの柱が、歯科医療提供体

そして、患者の医療アクセスを守

年にわたる診療報酬の抑制が深刻な

上の引き上げなど到底容認できな

影響を及ぼしている。日本の歯科医

は軽減こそされるべきで、これ以

で浮上している。国民が安心して受 反映させる新たな負担拡大の議論ま

は、現在では1割から3割へと引き

市民講座を通じて広く社会に訴え、 実現を」の理念のもと、署名活動や

国会への働きかけも重ねてきた。

上げられ、いまや75歳以上の資産を

度導入時には無料だった窓口負担 さらに、1961年の国民皆保険制 て医療費の約45%を負担している。

保険でよい歯科診り 、類進化の過程におけ

縄文人に学んだ食育を

た。このような時代的・

院議員(立憲)、大門実

紀史参院議員(共産)、

国立科学博物館名誉研究員の馬場悠男氏が講演

ルで開催した。馬場悠男 史ミステリー人類は噛ん る咀嚼器官の変化につい 会は8日、市民講座「歴 い歯科医療を」大阪連絡 て学ぼうと、「保険でよ で進化した―骨から探る ハ類史―」をM&Dホー

(国立科学博物館名誉 のが特徴だが、縄文人は 大きいため歯並びが悪い くて歯槽部に対して歯が が参加した。 員)が講師を務め、ウェ 員教授、座間市教育委 研究員、日本歯科大学客 ノ視聴も含めて173人 八は顎が弱く、歯列が狭 馬場氏は、「現代日

人類の進化と顎の退化 について語る馬場氏= 6月8日、M&Dホ

> 鍛える食育を勧めたい」 ようになると顎顔面が退 学び、幼児の時から顔を った。縄文人の食生活に 顎が丈夫で歯並びがよか 過程で直立姿勢が発達 し、道具や火を使用する 馬場氏は、人類進化の の肉、ヨーロッパのパン などを食事の例に挙げ

嚼の障害だけでなく睡眠 を説明した。これは、咀 縮し喉頭が下降したこと 弥生時代以降の豊かな湿 時無呼吸を引き起こす究 箸文化によって、 更なる 極要因となった。また、 潤気候による稲作農業や られた。 う」「顎の退化について 話を聞いた。本人が意識 など、多くの感想が寄せ 感を発信していきたい」 歯科医師の立場から危機 してくれたらいいなと思 参加者からは、「娘と

顎を取り戻そう」と強調 げ、すね肉など硬い赤み で食いちぎり奥歯で正常 で大きく硬い食物を前歯 を変えることで、顎顔面 場氏は「日本人の食文化 を強化できる。手づかみ 文化的な変化について馬 に咀嚼していた縄文人の 生野菜や干物の素揚

か、尾辻かな子衆院議員

(れいわ) が応じたほ

(立憲)、大椿裕子参院

要請した。熱心に話を聞 科診療報酬の引き上げを 題をしっかり説明し、歯 労働による技工士不足問

議員(社民)の各秘書が

っかりと受け取っていた

いていただき、署名をし

保障制度に言及している。「効率

財務省財政制度等審議会が政府の経済財政運営と改革の議論の中で社会

化」の名の下に医療者と患者、世代間を

医療制度改革論を問う財務省の

芝田英昭元立教大学教授

分断し、公的医療保険制度の変質を狙う内容だ。社会保障・社会福祉政策

て寄稿してもらった(全4回連載

に詳しい立教、立命館各大学の元

教授である芝田英昭氏にこの問題につい

産)、八幡愛衆院議員

6月5日国会要請行動

だ。面談には森山浩行衆 への要請行動に取り組ん 容顯各理事らで国会議員 副理事長、平野権栄、李

の実現を求める」署名の の「保険で良い歯科医療 から持参した7223筆 対応した。各氏とも協会

紹介議員を引き受けた。

を掲載する。

の方々が参加し、熱気あ

(財政各論Ⅱ)』では、「社会保

ふれる集会となった。現

科署名提出集会」は、全

科会が2025年4月23日にまと

財務省財政制度審議会財政制度

内で開かれた「6・5歯 旨を説明した。議員会館 合は秘書の方に要請の要 だいた。議員が不在の場

国から集まった百数十名

閉院が相次いでいる。歯科技工士の て歯科医院の経営は極めて厳しく、 歯科医療の手間や高度な技術が正当 すら現実味を帯びている。 材がいなくなる「入れ歯難民」 り、入れ歯や補綴物を製作できる人 なり手不足や高齢化も深刻化してお 療費は国際的にも極端に低水準で、 |評価されていない。 その結果とし 問題

「命と暮らしを守る政治」を実現するために

参院選に向けて声を届けよう

つある現状は、まさに危機的であ み」や「生活の質」を支える役割へ ともなるべき歯科医療体制が崩れつ と広がっている。地域包括ケアの要 く、口腔ケアを通じて「食べる楽し 今日の歯科は、「治療」だけでな

声を、政治に届けよう。 を受診できる未来を実現するため な意思を示す機会である。命と暮ら に、歯科医療の声を、そして患者の しを守る医療、誰もが安心して歯科 政治のあり方に対し、私たちが明確 この夏の参議院選挙は、こうした

保険でよい歯科署名

参加レポー

理事

李

容顯

山議員(写真下)。 、幡議員(写真上)と森 私が面談できたのは、 物価 う。 ルできた集会だったと思 多くの国会議員にアピー



第3回理事会報告 政策パンフの活用を

る「医療費4兆円削減」方針のも

政府・与党と日本維新の会が進め

(\)

中でもOTC類似薬の保険外し

と、長期収載薬やOTC類似薬の保

速している。

すでに国民は、医療保険料によっ

と公平性を守る立場から見ても、認

々を直撃する施策である。医療の質

めることはできない。

協会は、「保険で良い歯科医療の

しなど、患者負担を増やす議論が加 |給付除外、高額療養費制度の見直

病を抱える人や経済的に困窮する人

抑制をさらに進めるものであり、持 は、「自己責任」の名のもとに受診

麻酔行為などについて協 けた政策パンフレットの 活用、歯科衛生士の浸潤 事会を開き、参院選に向 協会は14日、第3回理

で政策パンフを活用し患 換をした。歯科医療費の ンフ「歯科医療に正当な 減を実現するため各院所 総枠拡大や窓口負担の軽 評価を」について意見交

渉を予定している。 政局・保険局を交えた交

現した制度」と述べ、社会保障を自

保険制度は、基本的にこの共助を体

総枠拡大、窓口負担の軽減求めて

協会が作成した政策パ は「丁寧な議論なく進め られることに対して運動 発送することを確認し 下の全開業医に5部ずつ 者に訴えていくこと、府 会は7月31日に厚労省医 る」などが語られた。協 で抗議していく必要があ 行為について、理事から 歯科衛生士の浸潤麻酔

> た『持続可能な社会保障制度の構造 は社会保険を「共助」と位置付けて 様の概念が使用されてきた。 る。その後の政府文書でも同

助・共助・公助」を位置づけた 府が社会保険の基本理念に「自 **基本理念の変更を望むのか。** 回文書で主語をすり替えてまで こは考えられないのに、あえて このことからも、今日まで政

活動が行われているとともに、

限まで削減する「口実」に使用 ることで、「一部負担」と「保 料」、公助を「公費負担」とす 助・共助・公助」を位置づけ、 一部負担」)」、共助を「保険 助を「自己負担(法的には 医療保険等の社会保険に「自

助中心の商品としての「私保 会保険としての医療保険」を自 可能性があり、結果として「社 す政府による恣意的運用を許す さなリスク」なのかは判然とせ をもって「大きなリスク」、「小 は自助中心の原則」(同p21) 人クは共助中心、小さなリスク を徹底すべきとしているが、何 こたいのではなかろうか。 また、同文書では「大きなリ

る」と述べ、加えて「社会保険 いる。しかし、ここで同分科会 険の基本理念である自助・共助 生活水準、家庭状況などの需給 困窮などの状況に対し、所得や 性がある。例えば2006年版 障の概念」を大きく変える可能 内でオーソライズされているの が使用する「基本理念」が政府 保障制度の構築」p16)として 政制度分科会「持続可能な社会 が醸成され、その体現に向けて 制度などの生活のリスクを相互 組み合わせにより形成されてい 厚生労働白書では「我が国の社 とが理想」(財政制度審議会財 全体が有機的に連携していくこ で自助や共助では対応できない に分散する共助があり、その上 云保障は、自助、共助、公助の この文言は、政府の「社会保 公助の考えに基づき共通認識 財務省の「社会保険の理解」は正しいのか

かは怪しい。

権原理、公的責任の下で運営される であり、看過できない。 がゆえにあえて保険に「社会」を冠 していることの意義を捨象する流れ に変容させる可能性がある。人

険、介護保険、雇用保険などの社会 生労働白書でも、「年金、医療に 障を行う公助が位置づけられ

る」としているし、2010年版[

要件を定めた上で必要な生活保